

「農地を活かし、地域を育てゆく」を合言葉に、地域の農業振興に取り組めます。

第64号

2026年8月

市農業委員会
国立市農業委員会

くにたち 農業委員会だより

稲作体験学習会事業田植え

市内小学生による田植えが行われました。

6月12日(金)市内8校の小学5年生543名による田植えが行われました。

当日は天気にも恵まれ、絶好の日和となり、元気に実施しました。開会セレモニーの後、まず、一小、二小、三小、五小が田んぼに向かい裸足になって慎重に田んぼに入りました。田んぼの土の感触が、ぬるぬるで気持ち悪い！ひんやりして気持ちいい！と、感想は様々でした。

最初は苗を3本に分けるのが難しくて少なかったり、多かったりと苦労しましたが、2列3列と進んでいくうちに調子も出てきて、上手になりました。次の順番の六小、四小、七小、八小の生徒も田んぼの感触は様々でした。何人かは田んぼ

に尻もちをついた子もいたようですが、皆面白いがやがや楽しんでいました。次は秋の稲刈りが待っています。楽しみです。

ご協力頂いたJA東京み

どりの関係者の皆様、農業協会の皆様、子ども達への温かいご指導をありがとうございました。

(文：小鹿倉委員)



表紙写真：令和8年度稲作体験学習会事業田植え(令和8年6月12日撮影)



国立市農業委員会が新しい体制になりました

任期は令和8年7月20日～令和11年7月19日まで

会長挨拶

会長に就任いたしました北島直芳です。前期に引き続き委員一丸となって、国立市の農業振興に尽力いたしますので皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

新任委員挨拶

佐伯渡委員

農業委員の役割を十分に理解し、国立市の農業振興・農地の適正な管理と保全等、様々な活動を通じて地域農業が発展できるよう環境づくりをしていきたいと思ひます。

杉田保則委員

農家の皆様とのつながりを大切に、地域農業の発展と農地の保全に努めてまいります。現場の声を大切にしながら、誠実に活動してまいります。よろしくお願い致します。

西野耕太委員

この度、遠藤良信さんの代りに千丑・石神地区担当になりました。国立市の農業と農地を継続できるよう活動していきたいと思ひます。



前列左から

内山 砂里 委員	農政班	商工会推薦	2期目
杉田 保則 委員	農政班長	中平地区	1期目
北島 直芳 委員	会長	坂下地区	3期目
関 慎一 委員	会長職務代理	下谷保地区	2期目
佐伯 昌信 委員	農地利用班長	四軒在家地区	2期目

後列左から

西野 耕太 委員	農政班	千丑・石神地区	1期目
佐伯 渡 委員	農政班	農協推薦	1期目
佐伯 義夫 委員	農地利用班	青柳地区	2期目
佐伯 正弘 委員	農地利用班	久保地区	2期目
小鹿倉 薫 委員	農政班	税理士	4期目

農業者大会と各種表彰

■第67回東京都農業委員会農業者大会

令和8年2月24日にプリモホールゆとろぎ(羽村市)にて東京都農業委員会農業者大会が開催され、今後の都市農業の持続的発展等について協議が行われました。また、各表彰事業の授与式も挙行されました。

■令和7年度北多摩地区農業委員会連合会優秀農業経営者表彰

令和8年2月4日に武蔵野スイングホール(武蔵野市)にて令和7年度北多摩地区農業委員会連合会優秀農業経営者表彰式が挙行されました。



(写真左から)

北多摩地区連合会優秀農業経営者受賞
令和7年度農業功労者感謝状受賞
第65回企業の農業経営顕彰受賞

関 敏明さん(下谷保地区)
遠藤ユリ子さん(久保地区)
北島将臣さん・祐子さん(坂下地区)

令和7年度認定農業者が新たに認定されました

佐藤一広さん(青柳地区)、佐伯直彦さん(久保地区)が新たに国立市認定農業者に認定されました。お二人の認定により国立市の認定農業者は25経営体になりました。

(写真は左から)
佐伯直彦さん、濱崎市長、佐藤一広さん



令和8年度農業委員会の主な年間予定

定例総会 毎月第4水曜日(原則)

田植え 6月12日(金)

農地利用状況調査 10月上旬

稲刈り 10月22日(木)

国立市農業まつり 11月14日(土)、15日(日)

農業者大会 2月18日(木)

令和8年度国立市農業委員会活動指針については国立市のホームページをご覧ください。



農業者の皆様へ

令和8年度肥料高騰対策給付金について

国立市では、一定の条件を満たす市内農業者の方々について、肥料類価格高騰に伴う給付金を交付いたします。対象の方は、期日までにご申請ください。

〈対象者〉以下の①～③の全てにあてはまる方。

①市内在住の方。

②令和7年に生産した農畜産物の販売金額を確定申告していて1万円以上の農業収入があった方。

③申請者本人、又は同一世帯内の構成員名義の振込口座を所有されている方。

〈受付期間〉

令和8年7月13日(月)～令和9年2月26日(金)

国立市農業まつり農産物品評会があります

今年度も国立市農業まつり(11月14日①・11月15日②)において農産物品評会が実施されます。皆様が丹精込めて育てた農作物の出品をお待ちしております。



詳細・お問い合わせは農業振興係まで

くにたちの農を担う

認定農業者紹介 Vol.1

佐伯 幸緒さん（四軒在家地区）

今回ご紹介するのは、市場ニーズを見据え、多品目栽培で安定経営を目指す 四軒在家地区の佐伯幸緒さんです。佐伯さんは、就農以来27年にわたり野菜栽培に取り組んでいます。家業として受け継いだ農業を守りながら、市場のニーズや気候変化に対応した経営を実践されています。

■農業経営の特徴についてお聞かせください

農業経営の特徴は、多品目の野菜栽培です。夏はナスやキュウリなどの夏果菜類を中心に栽培し、それ以外の時期にはホウレンソウやコマツナなどの軟弱野菜、キャベツ、ハクサイ、レタス、ブロッコリーなど幅広い品目を手掛けています。主な出荷先は市場で、大量出荷による安定した販売を目指しています。一方で、天候や市場価格の変動による影響を一つの品目だけで受けることがないようにリスク回避のための多品目栽培もして、品種や収穫時期を分散する事もしています。

■特に力を入れて取り組んでいる作物は何ですか

野菜の中でも重視している作物が春キャベツとナスです。特に春キャベツは、秋に播種して冬を越し、翌春に収穫する越年栽培を長年続けています。近年は取り組む農家が減っている作型ですが、その分、市場への出荷が少ない時期に収穫できるため、有利な販売につながります。さらに播種時期をずらしながらリレー栽培を行い、長期間にわたって安定供給できる体制を整えています。



一方で、栽培の難しさもあります。ブロッコリーは特に気象条件の影響を受けやすく、梅雨時期の長雨や、強い日差しによって品質が左右されるため、作付け時期の調整に苦労しています。

■これから農業経営を持続させるために取り組みたいお考えなどは

近年の異常気象に対応するため、父に教わった長年の経験を生かしながら栽培管理に取り組んでいます。近年は、AIを活用することに関心を寄せ



ていて栽培や経営に関する情報収集を行っており、知らなかった知識を得られることもあり、将来的には経営にも活用していきたいと思っています。

■認定農業者になって良かったことはなんですか

認定農業者になったことで、補助事業を活用した機械導入や設備更新も進めてきました。トラクターや管理機などの導入に加え、肥料価格高騰への対策も助かっています。機械が新しくなると作業効率が上がり、体への負担も軽減されます。認定農業者制度は経営の幅を広げる上でありがたい存在と評価しています。

■今後の抱負についてお聞かせください

現在は経営規模の拡大よりも、畑の管理を重視しています。雑草対策や連作障害の軽減を目的に、一部の圃場を休ませながら土づくりを進め、将来に向けてより良い栽培環境を整えているところです。良い作物ができて、それが適正な価格で評価されたときが一番うれしくやりがいを感じます。

※「天気の良い日に畑で仕事をしていると気持ちが良い。健康にも良いと思います」と、自然の中で働く農業ならではの魅力も語ってくれました。消費者が求める野菜を見極めながら、市場ニーズに応じた生産を続ける佐伯さん。長年培った経験と新しい技術への関心を両立させながら、これからも地域農業を支えていきます。

